

## 基本目標及び基本目標を具体化するための視点等について

## 1 計画の基本目標について

## (1) 第1期計画の基本目標

(平成21年3月の策定当時における考え方)

10年後の社会を見通すと、少子・高齢化、情報化、国際化・グローバル化、環境問題の深刻化、雇用の多様化や社会意識の変化などが一層進行し、我が国は多くの課題に直面していくと思われま

す。このため、これからの教育には、一人ひとりの個性や能力を伸ばし、自ら学び自ら考える力を身につけることで、困難を乗り越えてたくましく生きる力をはぐくむことが求められています。

このような状況を踏まえて、本県教育の基本目標を次のとおりとします。

**たくましく生きる力をはぐくむ  
～ 自ら学び、自ら考える力を ～**

## (2) 第2期計画の基本目標

(平成26年3月の策定当時における考え方)

今後5年間の基本目標は、群馬県の教育が目指す10年後を見通して策定した第1期計画の目標を継続し、次のとおりとします。

その上で、この5年間の社会情勢の変化を踏まえ、次の2つの視点からこの計画に掲げる基本施策を推進し、生涯にわたる学びの中で、たくましく生きる力を育んでいきます。

- ①一人ひとりが個性や能力を伸ばし、自ら学び自ら考える力を身に付け、自己実現が図れるようにする
- ②共に支え合い、高め合いながら未来を創造していけるようにする

**たくましく生きる力をはぐくむ  
～ 自ら学び、自ら考える力を ～**

## 2 第3期計画の基本目標を検討するに当たっての諸状況について

### (1) 教育をめぐる状況

人口減少と人口構成の変化に加え、急速な技術革新やグローバル化の進展により地域社会が変容し、また、子どもの貧困、地域間格差等の課題がある中で、教育をめぐる状況も大きく変化している。

学校現場では、平成29年3月の学習指導要領等改定により、学校と社会が力を合わせて子どもを育てていくこと、主体的・対話的で深い学びを意識した授業づくりを行うことが求められている。また、地域コミュニティの弱体化や家庭の状況変化により、地域や家庭の教育力が低下していることから、これらを向上させることが課題となっている。

政府においては平成30年6月に国の第3期教育振興基本計画を策定し、「人生100年時代」を見据えた生涯学習の推進や、多様なニーズに対応した教育機会の提供など、今後5年間の教育政策の目標と施策群を示したところである。

### (2) 国の視点

#### ア 国の第3期計画で掲げる重点事項

- ・(個人の目指すべき姿) 自立した人間として、主体的に判断し、多様な人々と協働しながら新たな価値を創造する人材の育成
- ・(社会の目指すべき姿) 一人一人が活躍し、豊かで安心して暮らせる社会の実現、社会(地域・国・世界)の持続的な成長・発展
- ・「超スマート社会(Society5.0)」の実現に向けた技術革新が進展するなか「人生100年時代」を豊かに生きていくためには、「人づくり革命」、「生産性革命」の一環として、若年期の教育、生涯にわたる学習や能力向上が必要
- ・教育を通じて生涯にわたる一人一人の「可能性」と「チャンス」を最大化することを今後の教育政策の中心に据えて取り組む

#### イ 今後の教育政策の遂行に当たって特に留意すべき視点

- ・客観的な根拠を重視した教育政策の推進
- ・教育投資の在り方(第3期計画期間における教育投資の方向)
- ・新時代の到来を見据えた次世代の教育の創造

### (3) 県の視点の考え方

第1期、第2期の基本目標「たくましく生きる力をはぐくむ」は、学校教育、社会教育、生涯学習の各領域において、普遍の目標であり、第3期計画においても引き続き必要な理念であると考えている。

その上で、教育をめぐる状況を鑑みると、懇談会に設置した「学びのセーフティーネット」部会の、家庭環境や子どもの貧困、発達障害など、様々な状況に置かれた子どもたちがいる中で、たくましく生きるために必要な能力を身に付ける視点と、「可能性をはぐくむ環境づくり」部会の、技術革新、グローバル化が進展する中で、生涯にわたり一人一人が持つ個性や能力を伸ばす視点が必要であると考えます。